英佛交渉進捗

獨に懲罰が必要

佛の政策は正當と首相說く

【巴里十八日發電】英佛交渉は目下從來より稍有望に漸捗しつゝあり即ち佛國首相ポアンカレー氏は獨逸軍事管理につき總體的不統一の管理よりも寧ろ部分的にして且管轄的なる軍事管理を行ふを得策とする英國案の趣意を承認せんとするに傾いて來た

【ヌイリー十六日發電】佛國首相ポアンカレー氏は當地に於ける演說中佛國政策を正當なりとし占領を繼續すべき旨細說した尚氏は獨逸に對して大膽にも挑戰的態度に出で條約に違約を敢てしたと獨逸を責め懲罰が必要だと放言した

賠償金を要求するのみ

佛は歐洲形勢に責任はない

【巴里十七日發電】佛國首相ポアンカレー氏は代議院で演說し歐洲に於ける目下の形勢に對し佛國が責任ありと云ふは當を得ずと說き佛國は單に獨逸が賠償金を支拂はれん事を要求する丈けで他國に對する負債を棄却する意嚮はないと斷言した

賠償問題の解決には

伊太利の提出案が唯一方策

【羅馬十七日發電】伊太利首相ムソリニ氏は元老院で演說し倫敦會議に伊太利から提出した案こそ賠償問題を解決す可き唯一の方法であると斷言した

前獨皇太子の退去を促す

【ブラッセル十七日發電】信頼すべき消息に依れば白耳義政府は前獨逸皇太子の獨逸退去を主張すると

復興建築會社

五千萬圓の株式組織として

臨時議會に提案する

【東京電報】復興院が其出店格の復興建築株式會社創設の計畫ある事は既報の如くなるが復興院では既に會社設立の趣意書並に定款を脫稿した臨時議會の纏行を見て提出すべく未だ絕對に秘密に附してゐるが會社の內容に付いて聽聞する處に據れば該會社は資本金五千萬圓の官民合同的のもので全國指定の建築請負業者を以て組織せしめ之に尠くとも三千萬圓位の補助金を政府に仰ぎ殘餘の資本は公募とする恰も南滿洲鐵道株式會社と同一の方法を採る事となつて居るが會社事業の方法は三菱の方針と同樣に建築會社が一般の建築申込を受付け材料其他一切を一般民間請負業者に提供して建築を請負はしむるので最も臨機に合議する方法を講ずる事にして居るが更に復興建設會社に容易ならざる權限を附與してある事が見逃せない即ち復興院總裁の許可さへ得れば土地收容法に據つて自由に土地收容を爲す事が出來る事と日本勸業銀行の代理として低利資金の借下を大震大火建築者に爲す事が出來ると同時に日本勸業銀行に對して建築すべき物を抵當債務の擔保とする場合は建築會社は債務者の保證を爲す事が出來る等特殊銀行業務の大部分をも行使する機能をも持せようと云ふのである

帝都復興の財源は

土地自然增加稅か內債に依る

【東京電報】帝都復興の豫算は大體七億五千萬圓であるが此の財源としては差當り土地自然增加稅を設定し其他增稅勸業收入の引上げ等に依り是を辨じ公債は外債に依ることは成る可く避け若し止むなくんば外國市場から購入する物資の代價支拂に充當する程度の金額に止め內債を以て辨ずる考へを有してゐる併して七億五千萬圓の豫算で五ヶ年の計畫で帝都復興を完成させるならば所要額は一億五千萬圓位であるから其金は內債を以て充分募集出來る見込があると云ふのである

閣議（十九日）

【東京電報】十九日の定例閣議は午前十時より首相官邸に開會後藤內相より帝都復興に關する報告ありたる後重要政務を審議し左の人事を決定した

總領事　船津辰一郎
敍任朝鮮總督府事務官（二等）
朝鮮總督府道慈惠醫院　醫官　藤井半藏
陞敍高等官二等

航路補助

打切と豫算

【東京電報】大正十三年度遞信省豫算新規事業は一も認められず繼續事業は中止半減又は繰延べ打切り等の厄に遇つたものが多く電話交換擴張費の如きは今尚大藏省で財源の捻出方を講究であるが只航路補助費は大藏省は何等制限を加へず既定年額を其儘補助する筈で大正十年度から補助して居る歐洲航路北米航路及び濠洲航路其他の補助金百四十五萬圓は大正十二年度で滿期になるから之は大正十三年度から補助しないとしても

地方金融組合

擴張の要

關田京畿道理財課長談

京畿道理財課長關田源太郎氏は地方金融狀況視察の爲め驪州、利川、安城、長湖院、龍仁方面へ出張中の處十七日歸任したが其談に曰く『一般地方の金融狀態は頗る圓滑で更に震災の影響を蒙つて居らないが只平澤は米穀取引が多い關係上此の出廻り期に際し銀行が出し澁るので止むを得ず民間の金を借りるといふ風で稍金融不圓滑の傾きがあり金融組合の如きも預金は殆

政府は出來得る限り

朝鮮を援助する決心

齋藤總督の誠意と特殊事情に對して

山本首相商議側上京委員に決意を示す

【東京支局特電】釘本京城商業會議所會頭及吉田仁川、福島平壤三商業會議所會頭は十七日山本首相に會見朝鮮の金融產業其他につき詳細陳情したが其際首相の答ふる所は下の如くである『朝鮮統治に就ては余の在野當時齋藤男が總督の印綬を帶びて朝鮮に赴任するに際し委曲其抱負のある處を聽き共鳴する施政の方針につき滿腔の賛意を表して置いたが更に今回余が老軀を提げて聖閣に列するに及び齋藤總督から親しく朝鮮の現狀を聽き統治の方針に何等の變更を加ふる必要ないのみか益々之を達成するの急務なるを認め特に同總督が彼の人格と誠意とを以て一意朝鮮統治に當らるゝを感じ常に多大の敬意を表して居る次第である諸君今回の陳情に就ては余も充分諒察し深き同情を表するものである今や中央政府は非常の國難に際し多大の犧牲を拂ひ國家の安定に努め、歲入は減少し地方の諸事業も極度に緊縮するの實情であるが朝鮮の事情は特殊のものあり而も一日も閑却すべからざるに由り總督の誠意に對し出來得る限り援助を辭せざる決心である併し今之を具體的に諸君の前に提示することは出來ぬが政府の決意の如何なるものなるかについては近く事實として現はるべく其上諸君の諒解を得ることとならうと思ふ』

どない少し纏まつた金が出來ると直接米穀資金の方に廻して仕舞ふといふ狀態であるから組合に金を預ける者はないらしい龍仁郡の白岩といふ村落は邑內から五里も離れた邊鄙な土地だが內地人の金貸が五人も居つて十四、五萬圓も貸出して居るといふことである同地は何れも農家で商人は稀だから農業資金が大部分を占め他は生活費の不足を補ふらしいそこで同地に金融組合を置いたらどうかといふ說もあるが若し組合を新設することが困難ならせめて出張所でも置きたいと考へて居る然しこれはまだ全く未定のもので其出張所にしてどこの出張所にするか分らない只其必要を認めて考慮の內に入れて居るだけのことである更に角地方金融組合は大いに擴張する必要があり今度の出張で一層深く感ぜしめられた』

合同も餘り期待できぬ

現在の政界革新上に

政友會は肥えてはゐるが酒肥りだ

犬養遞相の政黨觀

【東京支局特電】合同運動を行はるのならもつと眞面目に行つて貰ひたい政權に有り付けさうだと騷ぎ出すがあれでは殆然政黨屋のトラスト運動ぢやないか政友會にしたところが表面は騷ぎが納まつたやうなものゝ元來が議論の相違で無くて感情の衝突が原因なのだから融和は難かしい、そこで公明正大な主張の下に之等の連中までも融せ寄して結合するやうな形勢ならば合同運動も多少の意義はあらうと云ふものだ、それにしても現在の政界革新の上に大した期待をすることは出來ないが政友會も絕對多數を擁しながら酒肥りの態だブクノヽ肥えてゐるより少し瘦ても肉の締つた方がよからう、政友會に限らぬ憲政會にしたところが今の政黨には元氣が缺けてゐる、曾て寺內內閣が解散をやつた當時吾輩は地方政情を視察に出かけたことがあつたが解散を喰つて意氣消沈し政府に對抗して起つ元氣などは少しも無かつたが實に情ない話しぢやないか

既航送料として當然支拂はねばならぬ從つて右は何れも大正十三年度追加豫算中に計上される筈である

外米輸入

免稅期延長內定

【東京電報】政府は震災當時米穀供給上不安を與ふべきを豫測し米穀法に依り勅令を以て外米の輸入稅を明年三月末迄免除する事としたが本年度第二回米作豫想に徵すれば外米五百餘萬石の輸入を必要とするので其結果之が免除期を更に延長するの要あり之に關し遞議中の處愈々免稅期が明年端境期迄延長するに內定し近く之が勅令を公布する筈

新しい收入印紙

十九日より賣出

【東京電報】震災の爲め收入印紙の原版が燒けた爲め今回新收入印紙が發行され十九日から賣出された新收入印紙は一厘茶紅五色厘橙色一錢褐色三錢綠色五錢栗色十錢紅色二十錢青色五十錢紫色一圓赤色五圓赤と綠十圓は赤と薄紫で圖案は三種に分たれて居る

領事會議日程

朝鮮關係在滿領事打合會は既報の如く二十日より三日間府內貞洞中樞院に於て開催する筈であるが其の內容は左の如くである

一、會議は政務總監之を統裁す
一、協議事項は主務局長又は課長より說明すること

▲二十日　午前十時より正午まで
總督總監挨拶協議事項
午後零時半より二時迄龍山軍司令官々邸午餐會
午後二時半より三時半迄協議事項
午後六時半より總督招待（官邸）
▲廿一日　午前十時より午後一時迄協議事項
午後六時半より朝鮮銀行、滿鐵、東拓、三井物產より招待
▲廿二日　未定

朝鮮現在人口

最近總督府の調査した朝鮮に於ける現在居住する總人口は一千七百六十二萬六千七百六十一人此のうち內地人三十八萬六千四百九十三人、朝鮮人一千七百二十萬八千百三十九人、外國人三萬二千百二十九人で朝鮮人は內地人の約四十六倍に當る、又外國人は內地人の約十二分の一に過ぎないが之を大正六年末に於ける現在人口總數一千六百九十六萬八千九百九十六人（內地人三十三萬二千四百五十六人朝鮮人一千六百六十一萬七千四百三十八人、外國人一萬九千百十八人）に比し五個年に於ける增加數は六十五萬七千七百六十四人である（內地人五萬四千〇三十七人、朝鮮人五十九萬〇七百〇八人、外國人一萬三千〇十九人）

米國行電報遲延

遞信局着電に依ると紐育無線電信局は通信輻輳を極め米國行普通電報は四十時間以上停滯するので遲延承知でなければ受附を見合せることになつたと

朝鮮事情宣傳の效果は

今後必ず直接に現はれると信ずる

各地に協和的施設續出

丸山警務局長各地の講演會の盛況を語る

朝鮮事情宣傳講演の爲め近畿地方へ出張中であつた丸山警務局長は十九日午後六時五十分列車で歸任したが途中まで出迎へた記者に對し左の如く語る

今回講演を行つた箇所は大阪、京都、神戶、堺、和歌山の五ヶ所であつた日時さへ許せばなるべく多く講演する心算であつたが二十日からは領事官會議があるし、それに是非歸任しなければならぬので飛ぶ樣にして廻くこれだけしか講演の出來なかつたのも亦已むを得ない事であつた。到る處聽衆は非常に多く大阪を除いた外は何れも公會堂が出來て以來初めての入場者であると云ふ事で其內でも和歌山の如き二千五百人以上に達し素晴らしい入場であつた。大阪は當日生憎大雨で案外聽衆も少かつたがそれでも千人內外であつた。一般に內地に於ける氣分を見ると丁度震災當時色々な風評もあり旁々朝鮮人を誤解して居つたと云ふ傾向があつたので、一面に於て朝鮮人を解せねばならぬと云ふ雰圍氣にある時機であつた爲め朝鮮事情宣傳としては非常に理想的の時機であつたこれが爲め幾分鮮人は目覺めたと云ふ意味もあつたが、それに聽衆は到る所一般を收容し切れぬと云ふ所もあつた、上流階級の人に限つたので、到る所二時間乃至三時間ぐらゐの講演をやつたにも拘らず終始熱心に講演を聽いてくれた。これは非常に愉快に堪へぬ所であつたが、こゝに於てなれば勿論講師は出來ぬが今後直接に間接に必ず何等かの效果はあるものと信じて居る。大阪方面の鮮人の勞働者は震災後大分鮮に歸つたので今何れも皆勞働に從事して居る、勞働者の宿舍や其他一般の生活狀態を觀察して見ると何等震災前と變る所はなく何れも落付いて働いて居る。それに內地人の方も非常に自覺して居る。一般大阪では目下府と市とが協同して內鮮協和會と云ふものを組織し一般鮮人の救護其他一切の世話を爲すとの事であるが、續いて神戶も此の點の計畫を有して居るとの事である。これ等は全く喜ぶべき計劃で震災の影響は却て內鮮融和の實を固ふするであらうと信じて居る云々

罹災醫者を朝鮮へ

多數の應募者あり目下詮衡中

中村秘書官語る

政務總監に隨行して東上十九日朝歸任した中村秘書官は語る『東京の復興氣分の盛熱に漲つてゐるのは驚くの外はない東京に着いた當時は一面の燒野原であつたがそれが一面にはもうバラックが建ち並んでゐると云ふ素晴らしい勢ひである罹災と言へば同胞の數十萬の罹災者を出した譯である、この罹災者中東京市南方面で自分で醫院を經營して醫院長とか其他優秀な技術を有する醫者とかが朝鮮に病院を開く資力もなく又採用して呉れるものもないので非常に困憊してゐるものが多いのであるところで朝鮮今日の慈惠醫院は設備機械其他に於て實に間然する處がない程までに立派なものではあるが常に醫官が缺員がちにあり又不充分な技術者があるので困つてゐたのであつた矢先震災地で左樣に醫者の罹災者があるとのことなれば此の際慈惠醫院の缺員醫師を補充したら一擧兩得だらうと云ふので早速募集をしたところ非常に應募者があり目下水野衛生課長が採用に關して詮衡中であるが是等優秀なる醫師が朝鮮に來て新しい同胞の爲に親しく手厚い醫療を施すことゝなつたら內鮮融和の上にどんなに好影響を與へるとだらうと思ふとにかく朝鮮としては衛生並に醫療施設の改善充實を期する上に於て慶ぶべきことであると思ふ』

私鐵社長未定

【東京支局特電】朝鮮私鐵合同後の社長專任に就き上京中であつた有吉政務總監は藤原後丸男及大道良太氏等に交渉したところ何れも其決定を見ずして歸鮮したが當分の間は從來の通り中央鐵道の幹部をして事務を監理せしむることゝなるであらう

領事會議出席者宿所

二十日より中樞院に於て開かるゝ朝鮮關係在滿領事打合會に出席すべき各領事及び代理者に關係者は十八日より十九日にかけ何れも入城したが之が宿所左の如し

▲鈴木要太郎氏（間島總領事）朝鮮ホテル▲船田中氏（拓殖局書記官）同▲船津辰一郎氏（奉天總領事）同▲山內四郎氏（哈爾賓總領事）同上▲西澤義長氏（吉林總領事代理）同上▲深澤暹氏（安東總領事）同上▲渡邊理惠氏（遼陽領事代理）同上▲西春彥氏（長春領事）同上▲吉原大藏氏（鄭家屯領事）同上▲阿部政治郎氏（通化領事分館主任）同上▲田中繁三氏（海龍領事分館主任）同上▲堀上定治氏（外務省亞細亞局第三課長）同上▲中山佐之佑氏（關東廳警務局長）同上▲田中千吉氏（關東廳殖產課長）同上▲赤羽克己氏（南滿鐵道理事）同上

禮山甘浦電話開始

遞信局で擧て工事を急いで居た忠清南道禮山及慶尚北道甘浦の電話交換開始は何れも準備が出來たので兩方共來る二十六日から交換を開始することに決定したが電話加入者は禮山五十三名甘浦三十九名であると

朝鮮機業狀況（三）

其の現在及び將來

然らば今後朝鮮の副業機業を發達せしめ工場機業を補助し以て鮮內需要織物の供給に貢獻せしめんとせば如何なる方法を取るべきか大略左の諸項に於て努力すべきである

一、原料の供給を豐ならしむること
二、技術の傳習、機具の改良を行ふこと
三、作業の整理即ち從來すべて家內に於て行ひたる作業中、適當なる部分は之れを共同作業又は他の專門作業に付し、家內作業を單純ならしめて能率を增すこと
四、元機屋を置き又は生產者の組合を作り、原料の供給製品の引受販賣に當らしめて、生產の煩累を輕減し其能率を進むる事
五、副業機業にて生產すべき製品の種類は工場機業に適せざるものゝ內より選むこと
六、生產組織を革め個人の獨立生產とせずして組合生產となすこと

【一】原料の供給を豐ならしむる事　元來副業の原料は棉花、大麻、苧麻、蠶繭等すべて其地方生產のものなれば供給は自然に制限せらるゝの形あり。加之棉花、蠶繭は內地移出盛なるを以て價格騰貴するときは生產の大部分は移出を目的として販賣せられ、地方の需要に充當すべきもの寡少となり延いて機業作業の圓滑なる進捗を妨ぐるに至る。此の如きは獨り機業者の苦痛なるのみならず原料生產者と雖も相當の考慮を拂ふべき處である。何となれば棉花蠶繭の價格は常に高位を保つものにあらず、一朝價格低下するときは地方機業之を吸收して織物に製織し以て原料暴落の勢を阻止するものなるが故に原料生產者も不況時代に於ける原料消化機關として機業の存在を重要とし、之に對して原料を供給するは當然のことなりとす。大體棉花も蠶繭も年々增產の勢あり棉花の幾分は緞子用として生產者自ら綿紡し、其綿絲は織布原料として地方に殘留す蠶繭に於ては一二等繭は高價にして販賣を有利とするも三、四等繭は價格低くして紬布製織を有利とするの事情あれば適當の調節を行ひ地方機業原料の供給宜しきを得せしむるは難事にあらざるべし。次に大麻、苧麻は原料として輸移出せらるゝこと甚だ少く全部之を機業原料に充當し得べきが如きも、生產品の品質により機業原料に適するもの少く地方によりて機業原料の供給不十分にて少しく機業生產を增加せんとすれば忽ち原料の缺乏を感ずるの狀態あり。殊に忠清南道苧布の如きは從來全羅北道の苧麻を原料とするものなるが、苧麻價格騰貴の爲常に經營不安を感じつゝあり。これ等は其地方に於て原料栽培を獎勵し、その供給を豐富ならしむるの外、紡績麻絲を混用するか或は廉價なる支那苧麻を利用する等の考究を必要とす

【二】技術の傳習、機具の改良を行ふこと　今日まで段々實行せられあるも、猶一層徹底せしむるの必要あり。尤も織物の種類によりて之を行ふの程度に深淺あり織布に在りては性質上改良は製絲、製織に至りて爲し得べく、即ち座繰製絲器の使用によりて原料生絲を改良し、一定繭量より多量の生絲を得ると共に、其生絲は纖度均一にして天然光澤を保持するの利あり更に改良織機の使用により、製織を迅速均整ならしむるの功を收むべし。即ち原料機具の製織の一切が改良せられて、面目全然一變すべきも、麻布苧麻に在りては其原料は天然纖維を割裂せるものにあらずして、紡績せるものなれば其拘束を受くる程度は纖布に在りては實に合理なる手紡絲は細大不同なる纖維を原料とせる手紡絲は細大不同にして、共に改良織機を用ひ難き事情あり。これ等は僅に機臺等一部の機具を改良して織物の巾及布面を成るべく均齊ならしむるに勤むるに過ぎず、織布に關する機具改良、技術傳習は慶北、平南、咸南等の諸道に於ては可なり廣く行はれ、其效果著しく改良製品は高價に販賣せらるゝが爲地方生產者は之を歡迎せり。其他地方に於ても蠶業發達して蠶繭の增加するに從ひ之を副業として其施設を行ふ勞等繭處分の法として同樣の努力をなすべきである。

ヨシアシ

◇無電問題がこんがらがつてゐるし北樺太油田問題には火がいりそうだし、ヘンテクナ季節だ。

◇高山孝行君の立候補の立看板に赤で四重圈點がつけてあるので、コレを見た小學生一點二點三點四點四々の十六點。

◇罹災醫師等の爲に岡田帝大教授は大規模な共同病院を設立するさうだ、矢張り施療の意味であるんだと。

◇朝鮮鐵道の社長はまだ決定せぬ模樣らしい、モツトモ總會もすぐだからそう決定してゐるわけだが。

◇純朝鮮人で會社の一つもあつこと外にあるとの投書が來た、たつた一つ。

◇泣いても笑つても府議選擧は今日だ、同じ額で得意の顏となるのも失意の顏となるのも今日だ。

朝鮮事情宣傳班より

（十七日山口に於ける平井赤工課長より總督府宛着電）

十五日午後六時より內務部長はじめ關係各課長町長新聞社長等を招待し懇談せり十六日午後七時より當地今道小學校講堂に於て朝鮮事情紹介講演會を催す來聽者知識階級七百餘名場外に溢るの狀態なり十七日午後下關に向ひ七時より同地に於て同様講演會を開く豫定

（十七日午後二時元博多（長崎）に於ける大西調査課長より總督府宛着電）

十六日午後三時二十分より長崎中島會館に於て朝鮮事情紹介の講演會を開きたるに市內有力者敎育者學生等聽衆約三千名に達せり

（十八日下關に於ける平井赤工課長より總督府宛着電）

十七日午後七時より豫定の通り下關商業會議所樓上に於て朝鮮事情紹介の講演會を催す折柄暴風雨ありしも市會議長其他有力者百餘名の來聽を見たるを幸ひとす十八日廣島に向ふ

人事消息

▲菊池軍司令官　今回陸軍大臣の命に依り朝鮮軍狀奏上の爲二十一日午前十時八分龍山發列車にて長崎副官を隨へ東上

▲前田榮之助氏（全北理財課長）十八日入城同上

▲守屋榮夫氏（庶務部長）歐米漫遊中の處二十七日大洋丸にて橫濱【著豫定

▲竹內健郎氏（黃海道警察部長）十八日夜入城天眞樓へ

▲山澤和三郎氏（京畿道學務課長）學事視察の爲め十九日朝仁川へ出張即日歸任

▲丸山警務局長　朝鮮事情宣傳の爲め近畿地方へ出張中の處十九日歸任

▲石川保安課長　全州方面へ出張中の處十九日夜歸任

辭令（十九日附）

總督府道警視　高木國則
總督府道警部及道警部補考試委員を命ず
同　鈴木貢
總督府道警部及道警部補考試委員を免ず

出張命令（十七日附）

總督府稅關長　總積眞六郎
出府を命ず

最上醬油
朝鮮仁川港
高杉醬油釀造場

往診　自午前八時至午後十時
宅診（午後二時以後）
花柳特病には夜間診察
仁川仲町一丁目（仁川俱樂部隣）
壬生醫院　電話六一六番
入院隨意
咯痰、血糞、液尿其他顯微鏡に細菌檢查診斷

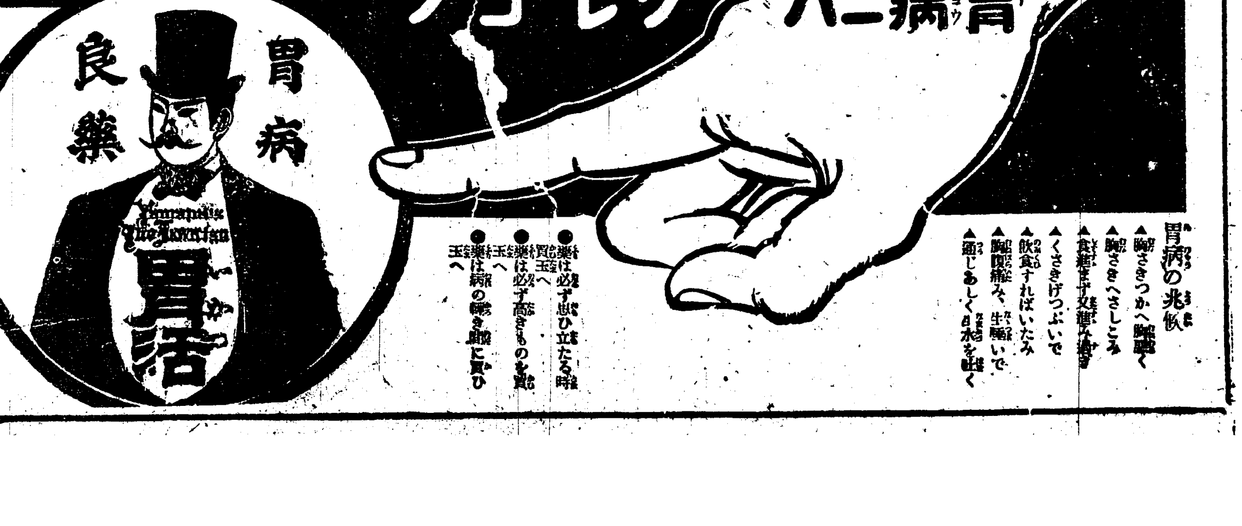
毛糸店エンゼル
京城南大門通二丁目（丁字屋隣）

李王職御用
模範全乳
總督府醫院御用
東亞牧場　大正町醫專前裏手
（電話二五一番）

名義書換停止公告
株式會社總會ノ爲メ來ル十一月二十一日ヨリ第十二回定時株主總會終了ノ日迄株式名義書換ヘヲ停止ス
大正十二年十一月十九日
京城天然氷株式會社

株券無効公告
朝鮮銀行五株券第八〇七號第八八號第八九號秋葉忠太郎殿名義右九月一日震火ニ因リ燒失ノ旨届出ニ付十二月二十日迄異議ノ申出ナキトキハ無効トス
大正十二年十一月廿日
朝鮮銀行

御家庭用色拔　デクロ
一袋四錢　送料五錢
色拔法─右一反分を湯にとかし染布を浸し約十分間煮て水洗すれば一切の染布は純白に白ぬきし染替に適します
洒法─（七十五尺洒晒）小匙を湯にとかし約十分間煮て水洗します又は小匙を湯にとかし五六時間浸し置水洗します、白足袋敷布、エプロン、タヲル、手拭、ハンカチ其の他一切の純毛織物の汚布は一切純白に洒ちます（布は絕對に損せぬ獨逸製）
京城花園町九七
發賣元　東華洋行
電話本局三九九二
振替京城一二四〇五



胃病の兆候
▲胸さきつかへ膨脹く
▲胸さきへさしこみ
▲食後必ず嘈雜み胸焼
▲くさきげつぷいで
▲飮食すればいたみ
▲胸腹痛み、生唾いで
▲胸さきあしく白水を吐く

●藥は必ず思ひ立たる時買ひ玉へ
●藥は必ず高きものを買ひ玉へ
●藥は病の輕き時に買ひ玉へ

帖佐醫學博士が胃の諸症に對して顯著なる効能ありと推奨された

胃活を御用ひあれ

胃活の特色
（一）胃活は胃病の特効藥のみを配合してあるから容量少くして効能偉大である
（二）胃活は一時の消化藥に非ずして根本的の健胃劑である……故に
（三）持藥として用ふるも後に害を殘さない

定價　一圓・五十錢・三十錢・二十錢
本舖　大阪市東區南久寶寺町二丁目
山田安民藥房
振替大阪二〇二〇番
◎取次所全國各藥店にあり直ぐ求め玉へ

冬季休戰すべく主張

佛白委員逮捕さる【ライプチッヒ十八日發電】

農商務省に

…の窮状を緩和する爲に最も速かに冬期全部に亙る休戰を取極むべき事を主張し巴里人心を感激せしめた

勞、保兩黨の政綱

（十七日發電）……

……分離派と……

―◇落・葉・か・き◇―

大震災の震源地は 酒匂川の沿岸

京大教授松山博士の新說

今回の大震災の震源地に就ては今迄發表された學說として伊豆大島沖に於ける土地の陷沒によるものとされてゐたが京大教授松山理學博士は全然此說を裏切り今回非公式に左の如く發表した

今回の震災の震源地に就き專門學者の發表した學說の根據は水路測量部所及び海軍の測量部が大島沖の海底に陷沒を發見したのによるので而もそれは約三十年前の測定による海圖に比較しての結果で學術的の確實性に就ては疑問である、予は大阪、京都、名古屋、岐阜、長野、濱松等の地震計の示す方向及時間から計上した距離等から測定して測定地の方向及距離の延長線は何れも酒匂川沿岸から小田原國府津に近き相模灘の北西海岸に合致して震源を計るので恐らく震源地はそこであらう（京都電報）

大圖丸遭難（詳報）

座礁に乘じて海賊來襲し 乘組員の所有品を掠奪

【外務省着電】大圖丸遭難に關し同夜一等驛十及栗栖警部の報告に依れば、大圖丸は十三日夜香港を發し十四日午前三時黃浦附近に於て座礁したるに乘じ十一時過ぎ海賊約二十名は發砲しつゝ同船を襲擊し約一時間半に亙り乘組員の所有金品を掠奪し支那人水先案內を拉致して引揚げたが二時半と三時半の二回に亙り又もや三十名以上襲擊し來り乘組員の所有品を掠奪し日本船長及支那人荷物方を拉致し去つた無線局長機關長をも拉致せんとしたが同人等は辛うじて拉致を免れた無線局長、賄長を船長と間違えたものらしい

驅逐艦派遣

廣東領事から要求

【廣東十八日發電】當地總領事館は在留民の希望に依り時局を慮かり驅逐艦派遣を馬公要港部司令官に要求した大圖丸事件に鑑み萬一を慮かつたのである

賊巢を衝く

一名を殪し 數名を傷く

平北道警察部の搜查班の一隊である支警部等一行八名は楚山郡原方面に活動中先般渭原郡密山面上所洞の泉石と稱する溪谷に賊窩あるを探知し渭原谷山兩署員と協力して之を襲擊して賊一名を殪し數名を負傷せしめモーゼル拳銃一彈丸六十發其他雜品を押收したが賊は七名にて死體を遺棄して逃走した搜查班に死傷はない（新義州電）

不逞漢八名と大格鬪

楚山署搜查班

【平北】道楚山警察署高原巡查部長が率ゆる搜查班三名の一隊は十三日頃鴨綠江岸楚山郡東面化豐洞から建陽洞に通ずる溪に於て八名の不逞漢と出會し約三十分の大格鬪を演じ遂に賊一名を殪しモーゼル拳銃一挺彈丸數百發と支那民兵服及帽子等押收したが賊は死體を遺して四散した尚二三の負傷者あるもの如く我には何等被害はない

稼ぎ溜めた金を

詐欺賭博で捲き上げる

【慶北】義城郡安平面水河洞農李希俊（二三）は數年前より內地に出稼ぎ百圓許りの貯金を持つて歸鮮し去る十二日大邱驛に下車し尺町の齋藤旅館に投宿し虎の子の百圓を館主に預けた處同宿の全北益山郡益山面里金致道（三〇）及內堅町魚行商の安市場洞李東植（二〇）がこれを聞き込み甲中（三）外八名を教唆し三日午前九時李希俊が義城へ歸らんとする路を扼して詐欺賭博で懷中の金九十五圓を捲き上げた所が大邱署に分り一網打盡に逮捕し一件書類と共に一同檢事局へ送られた（大邱）

毆打されて流產

加害者は檢擧

楊州郡蘆海面中溪里一四〇李龍雲（三〇）は本年一月頃同面鶴林庵に至り自分は楊州署の刑事であると稱して戶口調查をなし『何故に居住の屆出を怠るか』と叱りつけた上同庵の僧侶李妙寶の妻鮮女（三七）を不法にも杖を以て毆打し直に此處を立退くべしと脅迫した爲め同人は姙娠四ヶ月であつたのに遂に流產するに至つた、それからも李は度々同庵に押しかけて行つて立退きを命じ、本年三月頃には庖丁を以て鮮女を凌辱せんとしたが人の來た爲め其目的を遂げることが出來なかつたのである、此事が近頃に至つて露見し楊州署にて取調べの上數日前檢事局送りとなつた

洋服を盜む

鮮童が用便してる隙に

府內堅志町一〇五番地筒井保太郎方河石澤（一七）は十九日午後八時頃明治町東拓附近で一名の鮮童が紙箱洋服一着（價格七十圓）を用便して居るのを奇貨に該洋服を窃取逃走する處を本町署員に檢擧された

十三年一日の如く 教化に努めた

溪內さんの置土產 去るに臨んで所感を語る

大谷派本願寺朝鮮布教總監督溪內弌惠氏は夕刊既報の通り大谷派本願寺の宗門的大改革の爲め新九寺務所の最高機關たる東京寺務院に任を受けて近く出發赴任することになつた、氏は明治四十四年元山別院に赴任し大正七年朝鮮布教總監督となり朝鮮全鮮の精神的向上の爲めに努力してゐた人である氏は語る

『今度の大震災で本山を初め三十九の在京の末寺が燒失しました、この復興に就いても從來の樣な殿堂式の建築にするかそれとも新しい東京の建築として會館式の建築にするか宗門の一問題です、帝大卒業後京都の中學で教鞭を採つてゐる中朝鮮視察の爲めに渡鮮して丁度歷史の講座を持つてゐた關係から將來朝鮮は何とかしなければならぬと思ひました、京城赴任後現總督が赴任され續いて萬歲騷ぎ等があり愈々宗旨傳道の必要を覺りました

よく世間の人は基督教と佛教とを比較しますがそれは外國人と日本人の宗教の比較です、外人宣教師は日本人は親しみ難く鮮人は狎み易いから鮮人間に傳道を專らにするが我等佛門の徒はその以前に在內地人の文化を高めて然して鮮人を教化して行かなければならぬ、最初鮮婦人などが本堂にお參りに來てゐましたが二兎を趁ふものは一兎を……

選擧名簿無效

兼二浦で擧紛擾

兼二浦にては議員の選擧名簿無效の爲め有權者大會を開き目下紛擾中であるが二十日の選擧は多少の波瀾を免れぬものと觀測される（兼二浦特電）

碧梧桐氏 講演會

碧梧桐氏講演會は豫報の如く朝鮮新聞社及本社合同主催で十八日午後一時より南山町美術俱樂部で開催したが定刻前既に滿員といふ大盛況、碧梧桐氏は拍手に迎へられて登壇するや徐ろに滿洲巡遊の感想を述べて演題『藝術の變遷と俳句』に入る。諄々として說き來る、藝術觀、俳句論に氏の深遠な蘊蓄を傾け約二時間半に亘つて聽衆を肯かしめ再び割れるやうな拍手を浴びて降壇、十分の滿足を與へて閉會した、（講演概要は本日より連載）因に氏は同夜中村鳥堂氏方に少憩後十一時五十分發列車で歸東の途についた

現在の朝鮮……先づ產業を……後徐ろに……を計らねば……諸君は向上……人教化の第一……ある、在鮮……の皆樣が……たことを……思ひます』……因に同氏……時京城……ある

得ず、全……いて鮮人……いと思つ……建て之を……步の事業……

皇后宮、親しく 產婦を御慰問

各產院に行啓

皇后陛下には過般來傷病死者を憫れませらる、親しく患者を御慰問あらせられたが十九日午……濟生會麴町分院日本赤十字社本部臨時產院……院へ行啓遊ばされ親しく產婦を御慰問あらせ……

映畫になつた 相對性原理

從來我國に輸入された學說の中でアインスタイン氏の相對性原理ほど多くの人々に持囃されたものはあるまい然も亦是ほど難解なものも少く是を通俗に解說した書籍は幾ら發行されたか分らぬが天下幾千萬の同學研究者中果して幾千の人々が此原理を咀嚼し得たかは頗る疑問で……の難解な原理を……に作製し……易に其概念……たものがあ……此の映畫……特にハン……ンブルー……ニコライ……

二十三日夜 公會堂で……

知識階級……學生は必……

會費一圓均一……

河崎四段、過般新に……及會では……我社後援の……十時から……留所……大會を開……『當日……まで等級……▲二等五……四等十五……庫價券……六等より……品を贈呈……らく洗濯……碁界も近……る折柄、……更に一時……下出席者……何に盛況を……に難くない……因に當日……す』出席……一河崎四……

園……

本社主催

欠

魂の力 (第百十七回)

中川雨之助作 小寺柳村畫

眞夜半

京子が、扇谷木へ戻つて來たのは、その夜の眞夜半過ぎであつた。病院へ行くといつて、朝家を出たきり、更に歸つて來ないので、女将を始め總の利加子が甚く心配してゐるところへ、ぶらりと歸つて來たのであつた。

「まあ、今頃まで何處へ行つてゐたの」

「電話でも懸けて來なきや、家では心配するぢやないか」

女将や總が取囲むやうにして喧しく言つたが、京子は只一語

「どうも遲くなつて濟みません」

と言つたきり、そのまゝ消えるやうに階子段を昇つて行つてしまつた。

「まあ、何うしたと云んでせう」

と、女将と利加子とは、その後で顔を見合せたが、兩人とも、何となく不安でならなかつた。

京子がヒヨツコリと入つて來た時、兩人は先づ彼女の容子に驚ろいたのであつた。銀杏返しは亂れてゐた、顔色は蒼ざめて、眼が釣上つてゐた。衣紋までが亂れたまゝになつてゐた。口へは出さなかつたが兩人ともに只事でないと思つた。

二階へ昇つて來た京子は、衣服や帶をかなぐり捨ると、長襦袢一枚になつて、そのまゝ崩れるやうに、寢床の中へ臥れてしまつた。そしてすつぽりと、頭から夜着を引被つたまゝ、啜く泣の聲は我を忘れて泣き續けた。

しかも彼女の懐には彼の紙幣束が、猶抱かれてゐた。彼女は先刻、あの郊外の路で、切めては金だけなりと、大館の手に返して置かうと思つたけれど、大館は何うしてもそれを受取らうとはしなかつた。而うして彼は片手に刄を光らせながら、片手に傲しい笑顔の假面を示しもて、京子の心を捉へやうとして迫つて來た。

京子は唯彼の前に、罪を謝するのみであつたが、彼女の打萎れた姿は大館の心を和げるどころか、反つて彼女に對する、彼の思ひを募らせるのであつた。

而して最後に彼は強い力で迫つて來た。慾望に狂つてゐる大館は彼女の肝を要求したりした。彼女は死力を出してそれと爭つた、此上迫れば京子が大聲を立てゝ救ひを求めさうな形勢を示したのでさすがの大館も彼女を抱き締めてゐた手を解かねばならなかつた。

その隙に京子は身脱れた。

『おい京子、お前は憤つたね。憤つて歸るのは宜いが、懐のその金のことを忘れちや不可ないよ』

背後から追掛けて來るやうな、毒々しい大館の冒瀆を聞きながら彼女は只無暗に街の明かるさを慕ふて走つた自分の懐に二千圓の紙幣束のある限り大館の魂の命を盗んだといふ事實のある限り自分は何時までも、大館のために苦しめられなければならないのだと思ふと彼女は今更ら懺悔の念に身を顫はせるより外はなかつた。

其處へミシリ〳〵と階子段の音がして、利加子が昇がつて來た。

彼女はソツト京子の枕元に坐つて少時容子を考へてゐたがやがて物軟かに訊くのであつた。

『京子さんお前さん何處か氣分でも悪いの？然うでなければお母さんも心配をして居つて下さるんだから今日一日何處に居つたといふことぐらゐ話したつて宜いぢやないかえ。今朝から今頃迄病院に居つた譯では無いんだらう、え？え？』

いくら訊ねても京子は只默つてゐた。而うして夜着の端の微に覗いた彼女が泣いて居るのであつた。

『默つて居ちや分らないわ、何だつてまたそんなに泣くの？、何がそんなに悲しいの？』

さう云ひながら利加子も共に引入れられて何となく悲しくなつて來た。

新柄ネクタイ新荷着 柄自慢 明治町通り 富屋

川柳偶坐吟

十一月十一日島致院の柳友、荒木吹竹、矢谷詩腕坊兩氏を大納言居に迎へて。

○ 手を上て先生に襟抽かすやう 吹竹
學者の眞似先生をやり過ぎ
○ 頭を捻る顔を先生見て歩き
白髯に先生の顔ならんでる
駢脇へ息を浴びてる手習子
○ 先生も許さない醉下り 詩腕坊
先生の腹、生徒も氣付くなり
先生へ鈴成りになる尋常科
甲の上又先生のほめちぎり
○ 負ける方の組へ先生肩を持ち 沈澱子
先生の丸髷を見る冬休み
腕力へ先生は君子氣取りなり
退院の日に先生の笑顔見る
○ 參觀へ先生あげた手を選び 大納言
先生へ遣り込めるべく下調べ
保險屋へ來て先生の如才なさ
勲章のあるが體操教師なり

新刊紹介

▲新天地(十一月)關東震災の爲め九月號は全燒し十月號は休むの餘儀なきに至つた本誌も本號に於ては復興の意味で全紙非常な緊張味を帶びてゐる(四十錢大連市須磨町七一其社)

▲朝鮮農會報(朝鮮副業品共進會記念號)目次の主なるものは朝鮮副業品共進會概況、朝鮮農會第四回總會概況、朝鮮産業大會概況等である(三十五錢京城黃金町二ノ一九五朝鮮農會)

▲金の星(十一月)第二アラビヤン、ナイト號(三十錢東京市外田端三五一其社)

▲書道研究(十一月)四十五錢東京市小石川區茗荷谷町六斯華會

▲圍碁虎之卷(十月)卅五錢東京市麻布區富士見町四三富之日本社

▲改造(十一月)復興經濟の第一原理(福田德三)震災後の金融並に金融政策(堀江歸一)軍法會議廢止論(末弘嚴太郎)大杉榮追想は山川均、村木源次郎、賀川豊彦の諸氏の外十三名の深き印象の追想談、龜戸事件、震災記、創作三篇等(八十錢東京芝區愛宕下一ノ一改造社)

六日文苑 投稿歡迎

選者 題『昔』尾上柴舟選
詩句 題『入營』内藤鳴雪選
川柳 題『蹊運』井上劍花坊選
締切 十一月卅日(各題共)
投金 天一週半、地一週、人半週
注意 一題一人三句、各選別紙、用紙半紙、雅號住所氏名明記 京城日報社『京日文苑』宛の事
其他 各地會報歡迎

俳句 内藤鳴雪選

題『月』——(八)

○ 尙州 北星
鶏の啼くまでも隣の月見かな
○ 白
我庵の芋は肥たり月の秋
○ 仁川 灩水
月に刈る田の人聲や夕月夜
○ 新昌 中郷
尺八を吹くは誰が子ぞ橋の月
○ 仁川 靈風
絶壁や月も照る江の下り舟
○ 京城 吐蘆
もの〻葉は濡れて冷たし月の庭
○ 仁川 文堂
月の夜や糸爪の水も壺に盈つ
○ 象浦 五九泉
月の出やチラ〳〵光る波頭
○ 京城 巨二
月の出や汐待つ舟の纜搖く
○ 京城 京
病む人の笑顔淋しき月今宵
○ 龍山 吼
行くとなく欄に來にけり今日の月
○ 龍山 三生
家遠き月の河原に更けてけり
○ 京城 夫二
帆下ろして風待つ舟や月の磯
○ 京城 繁野
山の灯をふと見てあれば出づる月
○ 龍山 素子
名月に廣に寢たる坐敷かな
○ 象浦 銀月
月ほめて皆公園のベンチかな
○ 長興 一齊
何時の夜も高き處に月見かな
○ 義州 日出
添乳して蚊帳の女も月見かな

木馬吟社 (仁川…鎮白報)

超重機に時化波立てる寒さ哉 耕雲
寒さや土間暗くせる影法師
山ねむる巷に蘋りや出り巡 想仙
綿打や肩にかゝれる挨り綿
ストーブに客脱去りし草履哉 交旗
來し醫者の蒲團の裾を廻り飛
道り歩く子に圍ひたる喫爐哉 正榮
峠茶屋に籠る仕度くや冬の山
姉弟よく顔似たる蒲團かな 浩々
マツチすつて寒夜の厨灯し飛
肩掛や急ぐ女の小買もの 農夫
陽を蔽ふて雪雲垂し寒さ哉
ストーブや横顔見せて館の人 絹村
泥濘に灰捨てありぬ街寒し
綿打や陽あたる縁に小守唄
手虫子の三味線寒く抱え爲 猿白

春雨會例會(二一、一四)

爐開、初氷、河豚

水かめに朝の厨の初氷 耕牛
今朝の冷え下女聲高し初氷 同
爐開けば猫既に來て喉鳴らす 舟芳
喰なれし料理自慢や河豚汁 同
喰ふた後無事聞合ふや河豚汁 流東
爐開きや客と出代る壁刺 同
爐開きに冷たき灰を崩し兎 樂浪城
洗ひ積みし儘の大根や初氷 同
河豚煮くや片手は暗き厨の灯 同
人影も微に汚れて河豚汁 骨々子
河豚提げて風に追はるゝ男哉 同
爐開きに國訛ある下部かな 精華
箒目の正しき道や初氷 同
爐開いて篩へば灰にある重さ 靜花
爐開きや子に作めたり長火箸 同
爐開きや子にまけて指角力 吐虹
河豚汁に賑ふ船の一夜かな 同

川柳 井上劍花坊選

題『節』……八……

○ 孝子洞 黑鬪
無禮講閣下は裸踊りなり
長襦袢得意は切られ與三郎
○ 象二浦 納亭蘭
百萬圓の踊りを見たと新歸朝
お七夜に産婆一さし舞ふて行き
○ 京城 大鼓坊
白粉が顔に流れる盆踊
盆踊靴で踊れず下駄にかへ
○ 京城 近眼子
緞帳が下りてダンサー鳴りを聞き
盆踊の型で女中の舞踏熱
○ 咸興 新甫
踊子の手藝涙で譽められる
○ 宣川 斗率
素人藝煽てられると文踊り
○ 孝子洞 夫蒼
山車の上浦れ世の中不景氣に

讀者

▲田舎にゐる母が子宮癌で困つてゐます特效藥あらば(へ群山全州通中村靜夫)▲商用英語の夜間出張教授をなさる方なきや(勉強生)▲全鮮氷滑大會は今冬は少くも三回位擧行されたい(木村)▲支那語の初歩から教授される方あらば(大村生外數名)△府内西大門町二の七大世界内華語研究社で正則支那語會話を教授するそうです(係)▲水族館の看板に仁川沖でとれた大海豹とあるので入つて見ると死にかゝつた鯔と鯉でアザラシなどは影も見えない(天眼生)△新庄氏へ返事は附箋付で返つて來ました尚ほ歌留多會の所在に就てお尋ねがあるので茲に纏めてお答へします『カサヽギ會』京城刑務所醫務係吉安忍氏『漣會』南米倉町高田槇次郎氏『美矢飛會』泉町一ノ一村田武一氏『双葉會』本町二奥野氏『嵐』醫學專門校内古市氏、規則は東京の規約を準用、大會は本社主催で每年開催、目下無週金曜日の夜假城倶樂部で美矢飛會が練習してゐます他派の選手も歡迎するそうです(係)▲驪節『レウマチス』にて困難致し居り候が貴社代理部の物理療法にて全治致すべく候哉治療日數は何程を要すべき哉御教示下され度候(林生)△レウマチスには著しき效力あり中には一回の施術にて既に自覺的他覺的症狀大いに輕快するもあり日數は輕重に依れど普通一週間乃至三週間にて全く症狀を止めざるもの多く筋肉關節痛に效力があります(係)

盛んに賣れる 内服六〇六號

横痃下疳は切るに及ばず ぐり〳〵、發疹は直きとれる 頑固な腦梅毒に又妙なり

梅毒下疳ヨコネ等の療法は現今彼の六〇六號注射が一番有效な物として專門家が使用してゐるが是は特殊の技術を要するので往々副作用を起す事がある、又病氣體質によつて五回六回もせねばならず、自然莫大な費用を要す、尚又人に知られず秘密に治したいとの患者が多いので、一般治療法としてはまだ應用されぬ、是を遺憾として斯界の先覺ドクトル數津先生は羽田醫學士と協力して内服六〇六號藥セービンを發見せり、本藥は六〇六號サルバルサンの化學的變化より研究せし藥にて之を服用すると忽ち全身の諸細胞に廻つて殺菌、淨血、下毒の作用を起し、如何に頑固な梅毒にも可驚效果を現はす、一ト度本藥を發賣すると滿天下の同病者より期せずして非常な好評を博し醫學博士、臼杵、山口、田中等の諸先生よりも意外の賞讃を受けてゐる。

◎下疳の治療法
感染して四五日經つと局部へ栗粒様の發疹が出來る是が下疳である患者の多くは此時餘り頭にもとめず撒布藥位で治療をしてゐるが是では根本的に治る物でない、病毒は體内へ侵入してゐるから是非共内部から治して行く前記内服藥セービン一期用を服用せねばならぬ

◎ヨコネの治療法
下疳の中によく治さぬと病毒は體内へ潜伏し時期を見て、股の付根へぐり〳〵が出る、是が横痃である、又首や腕へもぐり〳〵が出來る是が第二期の症狀であるからセービン第二期用を服用するに限る、ぐり〳〵は其侭消滅し、根本から病毒を絶滅して行く。

◎發疹毛髪ぬけ
病氣が第二期以上に進むと全身そこちと發疹が出る、又内臓や諸機關を侵されるから、毛髪がぬけ、手足の節々が痛む、全身だるく、眼、鼻、口、咽喉の工合悪く、臭い鼻汁出で、顔色迄も悪くなる、此時代が一番大事であるから充分に治さねばならぬ、かゝる患者は内服セービン二期用を服用するに限る、又少し重症者は三期用セービンを服用するがよい。

◎最も多い腦梅毒
梅毒病中一番多いのが此腦梅毒であるが是は氣付かぬ者が多い、往々神經衰弱と誤診へ腦病又は醫師でさへ頭腦爽快する日常頭痛、めまひ、記憶力減退、思考力なく、憂鬱、厭忘等の症狀は殆ど梅毒から來た物である、かゝる病者が梅毒の治療をすればテキメンに頭腦明晰、精神爽快となる、此腦梅毒には内用セービン二期用又は三期用が適當である。

◎品行方正な人にも毒がある
自分は品行方正であるから毒はない、他の病氣であると自ら信じてゐる者の血液を檢査すると意外に有毒である事を發見する、それは親よりの遺傳で永く潜伏して後年に出て來るのである、此遺傳性が最も腦神經系を侵すので彼の所謂腦病、神經衰弱と稱する病氣の持主の中には隨分此梅毒から來てゐる者があるから思ひ當る人は早く梅毒の治療劑として前記内服用セービンを服用するがよい。

藥價 一期輕症用金五円、二期重症用金拾円、三期頑固用金貳拾円、試用分金貳円、各小包料金拾貳錢海外五十錢、何れも嚴重な木箱に入れて密送す、送金は振替又は小爲替、代金引換小包も取扱ます

無料診察 店内附屬實費診療部にて何人にも無料で診察しお望に應じてワ氏反應、注射手術等實費で簡易治療なす

無代進呈 數津、羽田兩先生合著梅毒の容體より治療法等を詳述せし小册子を今回一万部限り進呈すハガキで申込め

發賣元 東京市本郷区眞砂町九電車通 振替東京三一八五八 柴崎仁壽堂
大阪支店 大阪市南区堺筋清水町電停前 振替大阪五一二五一八 柴崎仁壽堂

特約代理店

京城本町一丁目	山岸天佑堂
同 本町二丁目	木村眞三郎
同 本町四丁目	川浪藥房
龍山元町	巴商會
新龍山漢江通	三浦藥房
仁川本町	北島藥房
開城大和町	中村藥房
平壤大和町	森山藥房
鎭南浦三和町	大西藥房
元山府本町	石田藥房
咸興大和町	小林藥房
鳥致院	泉藥房
水原	佐々木藥房
忠北清州	青倉藥房
大田本町	一林藥舗
群山全州通	神下商店
木浦元町	水山藥店
大邱	町田藥房
釜山辨天町	八興南商堂
同	藤田藥房
馬山京町	石見屋藥店

△外各地大藥店にて販賣す

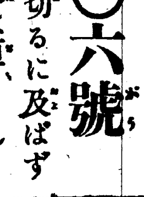
株式會社山口銀行京城支店
京城府黃金町二丁目 電話本局八五八・八六
資本金五千萬圓 本店大阪市

内科 胃腸病科
京城本町二丁目 石川醫院 電話(三二五九・三五九〇番) 診察時間 夜九時迄

内科 小兒科
京城府永樂町一丁目(商品陳列館前) 村上病院 電話自宅三五六七 病院六一三番 院長 醫學士 村上龍藏

タンをキセリ法を治す
呼吸器散
特長 呼吸器散ハ優秀ナル祛痰、鎭咳ノ特效藥ニシテ如何程頑固ノ痼疾ヲモ速カニ治癒シ呼吸器ヲ健全ニスル理想的良藥也
主效 ◇かぜのたんせき ◇喘息のたんせき ◇小兒の百日ぜき ◇肺病のたんせき ◇のんどはれ痛み ◇音聲かれ出でず 其他呼吸器病一切に用ひてタンを祛り、セキを鎭め、夜間安眠するの特效あり
價 二十錢 三十錢 六十錢 一円
本舗 大阪 東京 丹平商會 全國藥店に販賣す

(兒童保健相談所)
イケタ内小兒科病院
京城三越吳服店前へ入る南山町一丁目 電話(病室二三四番 自宅多〇二四番) 院長 池田手鍛



大性慾學家 澤田順次郎先生著 菊判 三百五十頁 頗密圖入
生殖器の構造
○青春男女の心得置くべき新研究
○空前の秘書 本書は性慾大家澤田順次郎及醫學士神山先生の共著にして今迄人に聞く事も教はる事も出來ざりし男女生殖器の組立より機能▲生理の全般及▲妊娠▲避姙の實際研究を密圖にて誰れにも分り易く說き
男女生殖器病自宅治療法 ▼神經衰弱▼快感減少▼交接不能▼陰萎▼遺精▼夢精▼早漏▼子宮病▼淋病▼しようかち▼梅毒等あらゆる男女生殖器病を自宅で出來る治療法を詳細に記述し定價壹圓五十錢 特價壹圓廿錢
大震災寫眞二組 無代添附
東京市麻布區富士見町六番地 正文社書店 電話芝五〇八〇番

京城旭町二丁目八番地
外科 皮膚科 瀬戸醫院 瀬戸潔 (電話本局二四九八番)

株式會社 朝鮮殖産銀行
資本金參千萬圓
京城府南大門通二丁目 頭取 有賀光豐

支店及派出所

京城 …… 各地支店及派出所

内科 小兒科 今村醫院 京城若草町大通り 院長 今村豐八 入院隨意 電話一八三二番

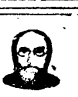
本社の寶庫安全金庫の火災區域にありたるものは合計壹百三十三個にして各使用者に就て遂げたる精細なる調査の結果を表示すれば左の如し

一、内容の完全なりしもの 九十九個
一、内容の一部燒損せしもの 參個
一、火災中開放狀態にありしもの 六個
一、内容の全燒せしもの 拾三個
一、火災中開放狀態若くば的確なる報告に接せざるもの 拾貳個

以上は實に東京並に横濱に於ける火災中にありし他の金庫の追從を許さゞる(レコード)なり火災中に於ける金庫の成績の凡てに付て世人に悉知せしむることは當然にして或る特殊情態の下に在りし結果によるもの〻如きは平均の成績として認むべきに非らざるべし不幸にして今回の火災區域中に在りし實業家諸氏にして火災中に在りし我が寶庫安全金庫の成績を現場に於て認められし人々は本社に與ふるに安全金庫の多數の註文を以てせられたり蓋し世界優秀の金庫なることを確證したればなり從來稍々中傷的報告をなすものありたるが全然矛盾せる事實無根のものなり

枝に揭げたる記錄は實に本社の寶庫安全金庫が保安物として優良なることを確實に證明せしこと已に一點の疑を容るゝ餘地なし況んや古今未曾有の慘火に際し其の損害の少なかりし成績は其の實質の優秀を確證して餘りありと謂ふべし

セーフキヤビネット會社總代理店
アンドリユース エンドチヨージ 合名會社寶庫部
京城黃金町二丁目日本生命ビルジング内 電話本局三八五九番



星印ソース
和食に於ける土佐節ほどの權威をもつて洋食國に喧傳せるクオスターレアーソース！

京城日報

（朝夕刊合せて十頁）
定價　本紙毎號前金▲壹ヶ月金一円二十錢▲參ヶ月同三円六十錢▲六ヶ月同▲郵券代用一割増
廣告料　五號活字十行詰▲七字詰同
發行兼編輯人　泥谷良次郎
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　合資會社京城日報社　電話光化門　振替京城三〇〇番

朝鮮最古の木造建築（三）

關野貞氏語る

鳳凰山浮石寺改椽記
此寺唐高宗二十八年、新羅元年新羅王、命義相法師始立、創建後元順帝十七年、至正戊戌、敵兵火其堂、像容頭面、飛出烟焰中、在于金堂西隅文殿石上、而寒千上、泪洪武九年丙辰、圓融國師改造改金、而至于萬曆三十九年辛亥五月晦日、風雨大作折其中梁、明年□壬子、改椽新其畫彩、嚴若剏制也、即其匠額及勧緣人、以示後世。

此の寺は唐の高宗二十八年、即ち新羅元年に新羅王が義相法師に命じて、初めて創建をしたものであるが、後元の順帝の十七年に至正戊戌敵兵其堂を燒いた、其際に本像の頭部が焔の中に飛出して金堂西隅の上にあつたのを洪武九年丙辰の年に及んで圓融國師之れを改造したものである。元の順帝の至正戊戌と云ふのは、元の至正の十八年で、高麗では恭愍王の七年に當るのであります。其時に敵兵が堂を燒いた、其の後洪武九年、九年は恭愍王の次の辛禑の二年に當るのでありますが、其の年に圓融國師が、其堂を再興したと云ふものであります。さうして萬曆三十九年辛亥五月晦日に至つて、風雨が起つて其へ中の梁を折つたのを、明年、此の一字（明年の次の一字）が判りませんが、壬子改めて彩色を新にして、又實のやうになつたのであると云ふことが書いてあるのであります。萬曆三十九年は光海君の三年に當るのですが、萬曆三十九年の五月晦日に、風雨の爲に建物が破損したが、明年萬曆四十年に修繕を施し、彩色を新にした、斯う云ふことが書いてあるのであります。此の記錄が丁度無量壽殿の後側西北隅の木肌にあるのです。そして萬曆三十七年己酉改金……本尊の金を新に塗り替へる意味でせう、勸誘……其修繕の爲めに寄附金を募つた、夫れが有名な松雲大師である。即ち之れに依ると萬曆三十九年に風雨の爲めに破損したが、其三年前の三十七年に、本尊の金を塗り替る計畫もあつたらしいのです、其のこともちよつと記錄をして居るのであります。

斯う云ふ記錄が出で來た爲に、どうも此の無量壽殿は洪武九年に改造されたものであると云ふことになつて來たのであります。又無量壽殿の前側の西南隅の飛簷隅木にも斯う云ふことが書いてあります。矢張り萬曆四十年に書いたものでありますが。

此金堂、自洪武九年經優火、後改造而至萬曆三十九年、自折圓椽也、壬子年始從、畢於癸丑年八月也。

南米と日本移民（下）

ブラジル公使　堀口九萬一

ブラジルに渡航するには三つの航路線がある、最も早く行ける線は米國を經由して行くので三十五日間を費せば行ける、それから大阪商船でケープタウンを經由すれば六十日間、メキシコ線で智利を經由すればやはり五十日間位で行けるが移民の多くはケープタウン經由で渡航する。その際にはブ國の政府から幾らかの航路補助があるから便宜である。向ふの政府では單獨移民よりも家族移民を歡迎する、單獨者はとかく一定の土地に落着きがわるく、轉々居住してあるくからで、家族者は土著して永久的に事業に熱心從事するからよろこばれる傾向がある、故に今日成功してゐる移民の多くは家族者である。

ブラジルでは生活資料は豐富である、肉類でも魚類でも相當にある、日本人は渡航した當時は食物に慣れないで困るが、一二ケ月も經過する中にはバタの臭ひも肉の味も甘くなつて、いつしかパンと珈琲の簡單な食事にも慣れてしまふ、併し最近では多くの日本人が入り込んでゐるので、蕎麥やうどんを商ふ店もあり、又豆腐醬油などを製造して販賣してゐるものもある。一時は味噌、醬油がないので不便だつたが、今日では之も生活の必需品として製造されて居るから日本內地の生活とは寧ろ變らない。

暑い地方に赴くよりも距離が遠くても南米方面に渡航することがドレ丈けよいか知れぬ。併し今回の關東方面の大火災によつた罹災民を、南米に移民として送つたならどうかと云ふ説もあるが、余はこれにはよほど熟考を要すると思ふ。何となれば東京や横濱邊りで暮した人々が、純然たる百姓となつて辛抱して働き得るや否やは頗る疑問とせざるを得ないからである。ブラジルの移民は筋肉勞働を事とするので、身體がそれだけ頑丈でなければならぬ。日本の都會生活者は勞することなくして生活したものが多いから百姓などするには甚だ不適當である。斯樣な身體の薄弱なる移民を送つたなら必ず不成功に終ると思ふ。震災地の罹災民中には筋肉勞働に堪へ得るものもあるだらうが、此れは極めて少數であると思ふ。之を獎勵して渡航せしむるには一考を要することであつて、寧ろ地方の疲弊せる農村邊りから家族的集團の移民の方が必ず良い成績が得られるに違ひない、この方針でブラジル行き移民を獎勵したいと思ふのである。（完）

スフヰンクスの下に立ちて（四）

守屋榮夫

駱駝と馬子

自動車にゆらるゝこと一時間にしていよ〳〵砂漠に連らなる地點についた。見ると數十頭の駱駝があの長い脚を屈し身體に比較してはあまりに纎長く思はるゝ纎頭な頸を少しくあげて、物珍しげに新來の客人をのぞき込んで居るのに會した。愈々いよ〳〵駱駝に乘つてピラミツトめぐりをするのだと興せずして思ふ。この駱駝の御者は何れの埃及遊覽記にも注意されて居る通り、ピラミットの途中まで來ると駝代をゆするので有名である。或る人などは一人旅して猛烈な強請に逢ひ閉口したと聞いたことがあつた。從つて吾等は此の問題について、豫め案內者たる横田君と交渉して、殊に一行中には婦人も居ることであり、絕對的にそんな不都合を彌縫かしめぬ保障を取つて置いたのであつた。さて先頭の連中からいよ〳〵駱駝に乘ることになる。私も私に配當された駱駝に乘つて見た。馬に乘るのとは違つて兩足を一方に差出して腰を駱駝の首と直角に置き、兩手で鞍の上にあるハンドルを把つて居るのである。六尺以上も高い瘠せた動物の上にかうした調子で乘つてみると慣れない爲もあらうが、あまり氣持のいゝものではない。そして道が勾配の急な所へかゝつて來るとともすると腰が鞍から拔け出して側面に辷り相になる。早速鞍のハンドルに捉つて用心して居る予の足を引張る者がある。見ると馬子である。一方の手で足を引張り一方の手では酒代を要求して居るのである。それはいかぬと否定すると頑強に足を引張り。そして駱駝を徐行せしめる。これが爲に吾だけが一行から四五間後れることになつた。すると、今度は自分の持つて居つた手綱を放して、駱駝に路草を喰はせるといつた調子である。其態度が面憎くもあり腹立たしくもあり、馬子を相手の喧嘩も面白くはないし、さりとて要求に應じて金をやるのも腹の蟲が承知しない。氣がついて見るとピラミットはもうすぐ側である。何も駱駝に乘る必要がない。むしろ歩いてやれといふ氣分になり、駱駝から飛び下りて岩の多い道を歩いて見る。此方がどれほど氣樂でいゝかわからない。そして後からついて來た馬子は叱り飛ばして追ひ返す。彼も些か目算がはづれたので閉口して歸つて仕舞ふ。すると客を乘せてない他の馬子が來て是非乘つて呉れ、自分は酒代は請求せぬといふ。嫌だと頑張つてみたが友人達も強て乘るやうにすゝめるので又乘つてみる。乘ると此の馬子又慾氣を出して見物がすんだ後でチップを呉れといふ駱駝にゆらるゝこと十分ばかりにしてピラミツトの下に著いた。

藝術の變遷と俳句（二）

河東碧梧桐氏講演

御承知の通り私は從來の所謂俳句と云ふものゝ形式を破壞して居る。所が私の樣に既に中學時代から俳句の形式を破つて今日迄それに向つて進んで居るものは餘りないので私に對しては到る處で色々の質問が發せらるゝのである。先づ其質問の主なるものを擧げて見ると、第一に誰でも私に向つて『君は何故從來の約束たる俳句の五七五調を破るのか……』これが大概の人が勝頭に私に發せらるる質問である。五七五調は俳句の約束であるに拘らずそれを長くしたり短くしたり、文章とも詩とも解かぬ變手古なものが澤山あるではないか態々そうする必要もあるまいではないか……と云ふのが、此質問の內容である。そこで假りに此の五七五の質問を發する人に『然らば君は何故其五七五調を喜ぶのか……』と私から反問して見る。すると大概の人がそれに對して私に滿足する樣な答へをしてくれる人は非常に少く所謂私の要求する樣な氣分を含んだ答へは容易にないのである。唯それは從來やり來つた約束であると云ふに過ぎないがそれでは甚だ淺薄な答へと謂はねばならぬ。

一體この五七五の音律と云ふものを調べて見ると、それは和歌の萬葉時代から出たもので、その以前の古事記などによると必ずしも五七五調ではなく、諸君が研究して見ても判明する如く種々の調子になつて居るのである。萬葉と云へば今から千年くらゐ前の事で、五七五調は即ち其時代から決まつたもので、それから單に俳句に限らず日本の歌謠と云ふものは殆ど五七五調になつて終つた。それから明治時代になつて新詩と云ふものが出來た。外山正一等のものがそれで、これでも矢張り其內容は五七五調になつて居るのである。斯くの如く五七五調と云ふものは五七五調が日本の歌謠全部を支配する事となつたが、何故斯くの如く日本の所有する歌謠全部を支配する事となつたか、此の原因を研究して見た人は甚だ少い樣である。が、私が直覺するにそれは言語の關係で、即ち日本語と云ふものが五七五調に相應しい自然の滑かさを有して居るからであると思ふ。そうでなければ此の永い間五七五調と云ふものが日本の歌謠全部を支配する筈はないのである。即ち必然である。此の必然は日本語にとつては非常に尊いものと私は信じて居る。詰り日本語と云ふものが頭に浸み込めば歌謠が何となく識らず〳〵に五七五調となるのである。所謂五七五調にするのでなく、五七五調になると云ふ所に必然を存じてゐる譯である。所がそれを何故に破るか……私に云はしむれば、詰りそれを言ひ換ゆれば、私は其處に尊さがあると云ひたい。西洋音樂に樂譜と云ふものがある。例へば例の名高いワグナーなら、ワグナーの奏したものにも樂譜は出來て居る。これは印刷したものであるから其の樂譜を見れば千人が千人樂譜通りに奏し得る事は容易である。然し乍ら、譬へば其の千人の內に果してワグナー其のものゝ氣持を引出し得るものが何人あるであらうか。と云ふ問題になると恐らく世界に一人か二人否ワグナー其の人より外にないかも知れぬと思ふ。其處にワグナーの尊い所があるので、他は何れもそれを眞似るに過ぎないものであり、ワグナーの氣分其ものではないのである。

今回京 て當選 る御同 御禮申 大正十二

今回京 當選の 御同情 禮申上 大正十二

今回京 當選の 御同情 禮申上 大正十二

今回京 得候段 と深く 大正十

今回京 得候段 と深く 大正十

今回京 得候段 と深く 大正十

今回京 得候段 と深く 大正十

欠